

都島駅(地下鉄谷町線)①

鬼退治の渡辺綱から不思議な鶴塚へ



「大阪あそび歩マップ集」
その1 No.012

地下鉄都島駅

① 都島神社

平安後期に後白河法皇が、生母の菩提寺・母恩寺に行幸したときに、このあたりの村の鎮護社として創建したとされています。天照大神、応神天皇など15もの神を合祀したので十五社神社(淀川神社は十五神社)とも呼ばれていました。境内に市内で最古の石造遺物である三重の宝篋印塔があります。

② 渡辺綱・駒つなぎの樟

このあたりは善源寺荘といって源頼光の荘園でした。頼光はここに八幡大神を祀り、樟くすのきを手植えました。渡辺綱は頼光の家来で荘園の管理を担い、やってきてはこの樟に馬をつないで八幡大神に参詣しました。そこで駒つなぎの樟と呼ばれるようになりまし。渡辺綱は頼光の四天王と呼ばれるひとりで、頼光に従って大江山の鬼・酒呑童子を退治し、さらに自ら京都・羅生門の鬼を退治したという話で有名です。樟は樹齢1000年、高さ30メートル、周囲12メートルの大樹で、昭和初期に大阪府の天然記念物第1号に指定されま



したが、戦争で焼けて枯れ死にしました。枯れ死にしてもなお倒れず、地元住民の尊崇を集めています

③ 農業水門

かつて都島一带は田園が広がって、井路川と呼ばれる農業用水路が淀川から寝屋川方面へ幾筋も流れていました。この水門は川の水量を調節するもので、近くの旧家に残っていたものを整備復元したものです。

④ 鶴塚

平安末期に、京都の御所に毎晩のように黒煙とともに不気味な鳴き声が響き渡って、帝が恐怖のあまり病に伏せるとい事件がありました。そこで弓の名人・源頼政が頼光より受け継いだ

伝来の弓を構えて待ち伏せ、黒煙に弓を放つと、猿の顔、狸の胴体、虎の手足、蛇の尾をもつ妖怪・鶴がヒョーヒョーと鳴きながら地上に落ちました。遺骸は淀川に流されて、この地にたどりつき、祟りを恐れた村人たちは母恩寺の住職に弔ってもらって、鶴塚を建てました。鶴は大坂の水辺と関係が深く、人知を超えた力で港を守るとして大阪港の紋章デザインになっています。



地下鉄都島駅

